

那 覇 市 教 育 委 員 会 会 議 録

平成22年度第22回（定例会）

署名人 田端 温代

委員長 城間 勝

開催日時 平成23年2月18日（金）

開会 午前10時00分

閉会 午前10時40分

開催場所 那覇市教育委員会 第1会議室

出席委員 城間勝委員長、田端温代委員、金城真徳委員、城間幹子教育長

議事日程

議案第47号 那覇市学校給食センター運営委員会委員の委嘱及び解嘱について（学校給食センター）

議案第48号 那覇市小中一貫教育全市導入に向けての基本的な考え方の策定について（学校教育課）

出席職員

新城和範生涯学習部長、佐久川馨生涯学習部副部長、屋良朝秀学校教育部副部長

東恩納隆栄総務課長、手登根朗学校給食センター所長、澤岷安昭学校教育課指導主事

会議録作成 仲間稔総務課主査

城間委員長 ただいまから平成22年度第22回教育委員会会議定例会を開催いたします。
本日の会議録署名は田端委員にお願いいたします。議案第47号「那覇市学校給食センター運営委員会委員の委嘱及び解嘱について」について説明をお願いします。

盛島部長 提案理由説明

手登根所長 説明

城間委員長 この件につきまして、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。

特にないようですので、議案第47号「那覇市学校給食センター運営委員会委員の委嘱及び解嘱について」は原案どおり決定してよろしいですか。

全員 異議なし

城間委員長 議案第47号「那覇市学校給食センター運営委員会委員の委嘱及び解嘱について」は議決確定します。続きまして、議案第48号「那覇市小中一貫教育全市導入に向けての基本的な考え方の策定について」説明をお願いします。

屋良副部長 提案理由説明

澤嵜指導主事 説明

城間委員長 この件につきまして、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。

金城委員 この小中一貫校についての地域説明会、PTAへの説明することについては大きな反対はないと思います。これはほとんど教育委員会の内部の調整といいますか、先生方の配置とか、それからいろいろな予算の問題とか、こういったものが重点にあるという気がします。

城間教育長 理解は得られるものと思っています。ただ神原小中の方で保護者に対して説明会をした時、期待される部分、不安な部分の質問等がありましたが、感触としては子ども達のためにというようなことで、こういった課題が解決できます、こういった課題が解決できますという中で、感触としては良い理解を得ているので市全体でやることについてもそんなに大きな反対はないと思っています。おっしゃるようにこちらの課題は大きいですが、やはり制度的なものですので、どうなっていくのか。どのようになるのか。あるいは聞いたことある人はわかるんですけど、まだわからない方もいるということで、今後、各中学校区単位で、小中一貫教育推進室のスタッフで各中学校区へ出向いて年間7、80回ぐらい、ご理解をいただけるように説明会をもっていきます。反対はないけれども、だからといってそういうことではなく、更に説明をしてご理解いただくというようなことで計画しているところです。

金城委員 2学期制の問題のときには、私どもの子ども達が3年生で、いま受験を向かえて大変困るというふうな3年生の父母の反対が結構多くあったような気がするんですけども、今回の小中一貫教育については小学校、中学校の高学年と低学年の1年生との連携とか、そんなに地域からの反対はないと思うんですが、ただ混乱というか、いろいろなるんだろうかというような疑問がいっぱい出てくるような気がします。

城間教育長 学校の営みの具体的な呼び方が、前期、中期、後期としたり、あるいは小中校の教諭が入れ替わったり、カリキュラムの中で中学校と小学校の先生が入れ替わってこう

したりというような具体的なものはありますが、学校の営みそのものは大きく変わりませんので、大きな混乱はないものと思っています。ただ理解していただくという部分というのは、やはり丁寧にしていかなければいけないのではないかと思います。

屋良副部長 全市導入に向けての基本的な考え方の策定の経緯ですが、実は、市議会の方で全体計画はどうなっているかという質問が出ました。それで壺屋小学校の説明会や神原小中校一貫教育推進協議会の中で全体計画はどうなっているかという話がありました。ですから全市導入に向けての反対はほとんどないと思います。ただ、細かいグループ分けとか、いろんな要望とか、そういった意見はあると思いますので、どうしても説明会、意見交換会は必要と思っております。

金城委員 小中一貫教育については市議会の了解も得るのですか。

城間教育長 いいえ、特にありません。

屋良副部長 予算関係、例えば次年度の予算の費用は議会の議決、承認が必要になってきます。

城間教育長 一番大きい費用というのは人件費で、私たちの構想では小中一貫教育コーディネーターを設置してもらいますが、その人物は今いる陣容の中で役職を当てるのではなく、こちらの考えでは1人余分に加配をしてもらいたいという構想で臨んでいます。そうすると今度は、その人を誰にするかというのは人事ですから県の事務所との交渉ですが、こちらが抜けた場合は、その人を充てるのは那覇市の小中一貫教育の構想です。今回、神原小中学校の方も1人分は、那覇市の方から予算を充ててもらっています。今後どうなっていくかということですが、各校に1人ずつ置きたいというランニングコストについて、その辺りで議会との対応があります。

金城委員 先日、新しい先生方が250名の加配という報道がありました。

城間教育長 小中一貫校とは直接関わりはありません。例えば、いままで5人教諭がいて、3人補充で本務は2人しかいなかったのが増えると本務が4人になるなどで、こちらの小中一貫教育の部分とは違う話題です。

金城委員 神原小中学校を検証しないまま、すぐ全市に普及するんですか。

城間教育長 検証は歩きながらということではありますが、先進地の事例を見ますとマイナスという部分は少ないです。ということでほぼ効果があるという声が大きいものですから、那覇市の小中一貫教育はこうあるべきというのを動き出しながら、変えていくのは除々に見えていくと思うので、平成24年度からやって検証して、その次、全市導入は平成26年度から28年度の間で考えています。検証期間は十分あると考えています。

澤峴指導主事 平成24年度からのモデル校の開始ですが、実は、平成22年度の推進協議会を立ち上げ計画を具体的に進めています。一部できる行事に関しては合同行事等も、平成22年度から始めているわけです。例えば、来週の2月25日には小中合同で部活の体験会というものも計画されていて、平成23年度にも合同行事ができるものをしていこうということで、平成26年度からいきなり始まるということではなく、できることに関してはいまから進めていこうということで、平成22年度から一部取り入れ

ています。

金城委員 神原小中ですか。

澤岨指導主事 神原小中です。その中で課題等もいまどんどん出てきていますので、平成26年度の中ではある程度の正確な課題が見えてくるものと思っています。

城間教育長 小中の交流において、学対の取り組みで小中合同の授業をこれまでやっていますので、違和感なくスムーズに入っていけるとと思います。数学や英語、それから国語もできるか、音楽はできるか、ということで、特に専門的な力をもっている音楽で、卒業式の合唱の指導に中学校の先生が出向いて合唱指導をするとかいろいろ考えられるわけです。

田端委員 私が少し心配いるところは那覇市の部活動の現状を見てみると、中学の部活に関しては時間が遅くまでだったり、あるいは日曜も土曜日も無かったり、それから小学校の少年野球も暗くなるまで地域の皆さんが関わっているということを聞きましたが、やはりクラブ活動も教育の一環として捉えるのであれば、部活動に対する教育、意図的な教育というものを少し考えていただきたいと思っています。それから、何年か前に中学校の子ども達から意外なことを聞きました。学校の学芸祭でいざこざがあったので、この階段は1年生だけが通るんですよとか、この階段は2年生専用の廊下ですよ、階段ですよということを聞きました。いま異年齢の交流がすごく重要なことを訴えています、私もそれが正解だろうと思います。その場合、中学校の生徒指導の先生と、それから私達が思っている理念が少し現場と共有できていない気がします。教育委員会と現場との意識のズレみたいなものをこれから少し共有していくことが大きなテーマだと思います。と言うのは、仲井真の場合、川をはさんで小学校と中学校がありますが、小学校側が中学生が来ることにに対して少し問題だということを聞きました。やはり異年齢交流に対しての現場と、それから教育行政、それから指導する側の主事の先生方と理念の共有をどう進めていくのかということが問題と感じました。

城間教育長 最後にありました件ですが、私達がやることは計画をして意図的に交流するわけですから、おそらく小学校の先生が心配しているのは放課後に潜り込んだりすることだと思います。ですから、良い教育をする中で仕組んで計画的に、教育的に彼らと交流させることによって違った効果があって、小学生は、中学生はこうだからとかで、その場で教えていくことができるのではないかという指導です。階段の件は、私がいた時もやりましたが、あれは間違っていたと思います。来たらだめとか、行ってはだめというようなことだけでやっていたので、それは方向としては間違いだったと思っています。もう一つは、部活動ですが、実は、那覇市も他市町村、特に中頭に比べたら加入率は低いと思います。70%、あるいは50%になった学校もあるというぐらい部活離れがあります。私個人もそうなんですが、部活で救われる子もいるし、学力と子ども達が成長期に体を動かすということは、これは並行してやっていかないとはいけないと思っているので奨励しています。ただ、おっしゃるように時間外の放課後の遅

くまでの問題は、とにかくいま一番大きな問題で、都市教育長会でも部活のことが話題となりました。部活動の時間を守るというのは、これは学校あるいはクラブ活動、野球部の皆さんに言わないといけないことで、大人がしっかり線引きをして短時間で有効な運動をするということを考えてやらないといけない。その辺りはどこまで声を出していけるか、私もしていきたいと思います。

田端委員

部活動に対して文句をいうわけではなく、大変有効な方法だと思っています。実は神原中に行った時にプラスバンドを見まして、やはり中学校時代に培われた活動が将来に渡って継続して豊かな人生を、一言で言うなら人生を送る下地が学校時代に作られるということを認識しました。問題は時間がオーバーして、その結果、担当される先生方の負担が多くなったり、それから子ども達にとって基礎的な学力を培う時間が削がれるという弊害もあるわけです。やはり、そこに教育的な配慮をもってということが一番大きなお願いだと思うし、できることなら部活動は大変有効な教育的な活動であるならば、そこにきちんと予算をつけ、人を配置するということを希望します。そういったことを私たちが訴えていけたらと思っています。

澤岨指導主事

部活動の件ですが、神原中学校の方では部活の加入率が5割を切るぐらいまで下がっているそうです。問題になっているのは、部活に入っていない子ども達が放課後の時間をどうするかということで、ですから少し部活の加入率を上げたいというのが学校の要望でした。部活をするためだけに、今回、部活動の合同説明会をするということではなく、入学説明会等で1回は学校に足を運んでもらっていますが、そういう入学前に何回か足を運んでもらう機会を作りたいということで、今回は部活動合同体験入部みたいなものを取り入れたということでした。それから今おっしゃっていた部活動の指導の件ですが、これも学校教育課の方でも次年度、部活動の指導者の研修会を予定しています。いまおっしゃっている時間の問題とか、そういうことも徹底していこうということで確認しています。

城間委員長

部活に関して、時間をたくさんかければ勝つかもしれないけれども、教育スポーツというのはそういうことではなく、その中で優勝を目指すけれども、手段をきちっと選んで指導して勝つことが大事だと思います。小中一貫について言えば、小中一貫することによって子ども達の教育と学校の活性化は非常に繋がり、保護者の活動も繋がっていく。その場合、小中一貫することによって何が違って何が変わらないのかということを、そこを7, 80回の説明会で浸透させていければ保護者もついてくると思います。また、私も寄宮中、真和志中で、生徒たちにお互い接触するなよと。なぜかと言うと、とにかく接触を避けることによって生徒指導が発生しないだろうということで、それぐらい課題が大きく、そして本来は間違っている。ではどうするかというと、そこできちっと議論できるように活動が展開できるシステムをつくってない先生方が悪いとなりますが、作ることはとてもつらく、時間的にも大変で、日常の授業をしながら、研究授業をしながら行政研修を受けながら学級担任もしながらシステムを作っていくというのは相当時間がかかる。だから、つい形式的に兄弟学級を作って

やりましたよねということだけで終わってしまうわけです。わかっているけれど、先生方もなかなかできないという現状がある。それは小中一貫の大きな課題で、どう日常的に、特に6年生と1年生に、ああいう先輩になりたい、後輩を育てあげるという関係をいかに作っていくか。ではどうするかというのは非常に難しいと思いますが、それがないと異年齢での切磋琢磨、社会性、協調性というのは育てていけないと思います。そうなるといじめも無くなり、自分の身内をいじめる生徒はいなくなると思う。自分の身内はいじめないし、大事にするというような環境をつくるシステムをぜひ、理念はわかっているけどどう作るかという具体的な手立てを小中一貫推進室でもって、具体的な行動委員会みたいなものを別途作って、その人達は具体的にどういう活動ができるのか、具体的な実践を、モデルと作っていくことが必要だと思います。

屋良副部長 指揮体制は学校教育課内に推進室を作ります。これが行政の事務局ですが、例えば神原小中でしたら推進協議会、保護者、先生方を入れて事務局からもこういった体制作りをします。その他に学識経験者を集めて審議会、これは8名ぐらいになりますが、専門職、校長先生、その3つの組織で推進していきます。全市導入に向けて、いま委員長がおっしゃったように仕組み作りをして、うまく保護者と学校現場と推進室がうまく機能すれば除々にシステム作りもできると考えております。

澤岬指導主事 いま神原小中一貫教育の推進協議会という、これは全体会議の組織がありますけれども、その下に部会が3つあり、1つは校長先生と研究所所長が入って学校運営委員会があります。ここは目指す子ども像や教育目標を作っています。教育課程部会がありまして、そこに教頭先生と教務主任、それから先生方、委員の先生方が入って、いまの合同行事はどんなことができるか。教育課程をどういうふうにしたらいいか。そういうことをいま相談している部会があります。神原小中の場合はそのようなのですが、全市導入になったときにもそういう組織を作っていけないかと思っております。

田端委員 最後に、部活動が5割を切ったという話ですが、たぶん子ども達の中で競争やいろんなことに耐えられない子ども達が5割以上いるのではと思います。その子ども達はどうなるだろうといった場合、例えば中には中学を卒業して高校も十分に出席できなくて、大きな問題に繋がっている子ども達の率が増えていったということは、放課後のあり方について、子ども達が要求する、子ども達が必要とするものは何だと考えた場合、やはり、これまでの過程、やり方と少し違った教育的な配慮をもって何かやっていけないといけないと思います。もう少し具体的に繋がるような、体験しながら放課後の過ごし方をもしかしたら委員会の中でどういうきっかけがいいのかということなどを。私でしたらジャスコのゲームセンターを回るとか、そういうことしかないと思いますが、地域に任せてしまうには、やはり地域の悩みとかありますけれど、そういうことを教育行政の中で子ども達の放課後をどのように過ごすのかという議論も必要ではないかと思っています。

城間委員長 今回修正され提案されました議案第48号「那覇市小中一貫教育全市導入に向けて

の基本的な考え方の策定について」は原案どおり決定してよろしいですか。

全員

異議なし

城間委員長

議案第48号「那覇市小中一貫教育全市導入に向けての基本的な考え方の策定について」は議決確定します。以上をもちまして、平成22年度第22回教育委員会会議定例会を終了します。